

編集後記

新潟は今週、6月下旬になってようやく梅雨入りしました。例年に比べて約2週遅れだったとか。また、各地で観測史上最高気温を更新とか、観測史上最大降雨量を更新などの報道が相次ぐこの頃です。新潟の昨年8月の平均最高気温は35.6℃と、例年の30℃前後と比べ、まさに異様と言っているほどの猛暑でした。稲の発育が悪く、米の品質も不良でした。それもこれもおそらく地球温暖化の影響と考えられますが、きっとこれらの気候、環境の変化は、私達の生活スタイルを変えていき、併せて疾患の病態を変化させていくのではないかと予測されます。私達が関わる眼疾患がどのように変化していくのかについても注目していく必要があるかもしれません。

さて、今月号の特集は「萎縮型加齢黄斑変性の現状」です。抗VEGF薬治療が可能となったことで、加齢黄斑変性(AMD)の治療は劇的に進歩しました。しかしこの対象は滲出型AMDで、これまで萎縮型に対する有効な治療法はありませんでした。昨年、米国で萎縮型AMDに対する治療薬が相次いで承認されたことから、治療の対象として今後クローズアップされていくと考えられます。そのような意味でまさにタイムリーな特集です。総論に続いて、病態に関するレビュー、診断、さらに新規薬剤について解説されて

います。今後の展開に注目したいと思います。綜説では「白内障手術とquality of life」を取り上げていただきました。どの眼疾患に対しても同様ですが、視力、視野といった基本的な視覚指標の改善に満足することなく、よりqualityの高い視機能を追求し、達成できる時代になってきています。もちろん研究も実践も途上ではありますが、眼科医にとってとても大切な視点だと思います。機器・薬剤紹介ではプリザープロ®マイクロシャントを取り上げていただきました。これをMIGS(低侵襲緑内障手術)に含めるかどうかについては議論のあるところですが、従来のトラベクトミーに比較して術式としてシンプルで、組織への侵襲ははるかに少ないことは確かです。現在、日本国内で急速に普及しています。術後1年程度の短期成績が報告されつつありますが、緑内障手術にはもっとも長期の視点が重要です。さらに長期成績をみながら、トラベクトミーとの位置づけについて議論されていくものと考えられます。ほか、4篇のたいへんに興味深い症例報告が掲載されています。

今月号の『眼科』も、興味深い内容が満載です。ご一読いただければと思います。

(福地健郎・記)

編集：後藤 浩・飯田知弘・雑賀司珠也・門之園一明・石川 均・根岸一乃・福地健郎
編集顧問：小口芳久・臼井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治・三村 治
飯島裕幸・坪田一男・富田剛司

「眼 科」 第66巻 第7号 7月号

2024年7月5日発行(毎月1回5日発行)

定価 3,300 円(本体 3,000 円+税 10%)

年間講読料金

定価 48,950 円(本体 44,500 円+税 10%)

[年間13冊(臨時増刊号を含む)の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165 [編集室直通]

Tel 03 (3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03 (3813) 0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 (株)文京メディカル 03 (3817) 8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。